

平成 15 年度 第 4 回院内集談会

日時：平成 15 年 9 月 23 日(月)

演題：小児の気道管理

(解剖、気管チューブの選択、気道外傷の機序)

講師：Joseph Holzki 先生

(ケルン小児病院麻酔科、欧州麻酔学会連合会会長)

小児気道の解剖学的特長として、7 歳以下の小児では、上気道で最も細い部位は輪状軟骨部であり、大人のそれが声門部であるのと大きく異なる。小児では、気管チューブは輪状軟骨部で少しもれがある程度のカフなしチューブを選択する。太すぎるチューブやカフ付きチューブの不用意な使用により気道損傷が容易に生じてしまう。

気管挿管手技としては、喉頭鏡のブレードは先端が屈曲していると声帯が見えやすい。また、喉頭の軸と口腔との軸を一致させるように頸部を少し小指で圧迫すると気管挿管が容易になる。同じ内径でも外径が少し異なるチューブを用意してカフがなくてもフィットするチューブを選択するようにする。

更に喉頭奇形や食道閉鎖に伴う気道の異常などについて、美しいスライドを用いての説明が行われた。